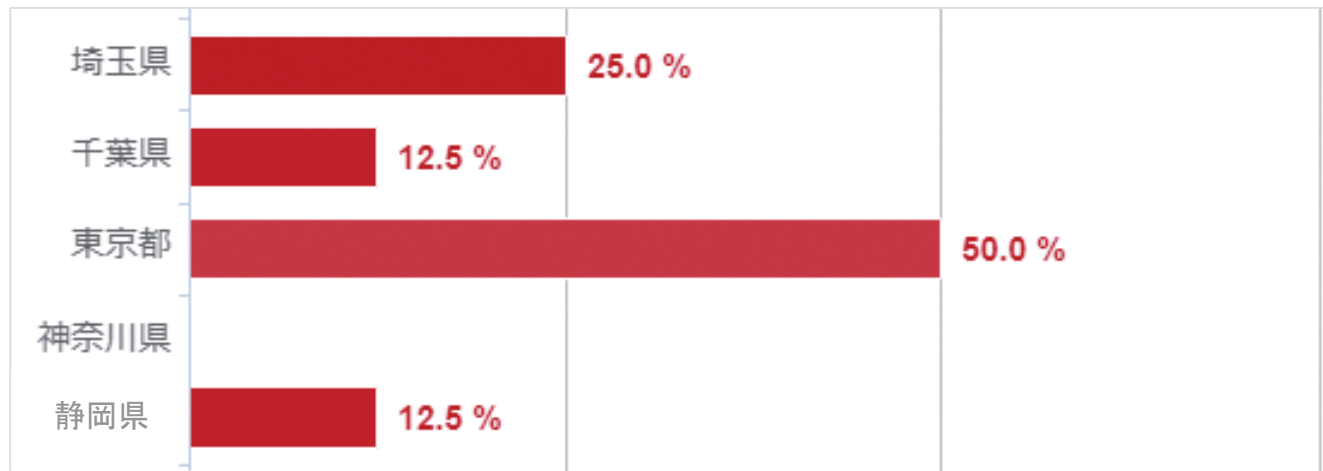
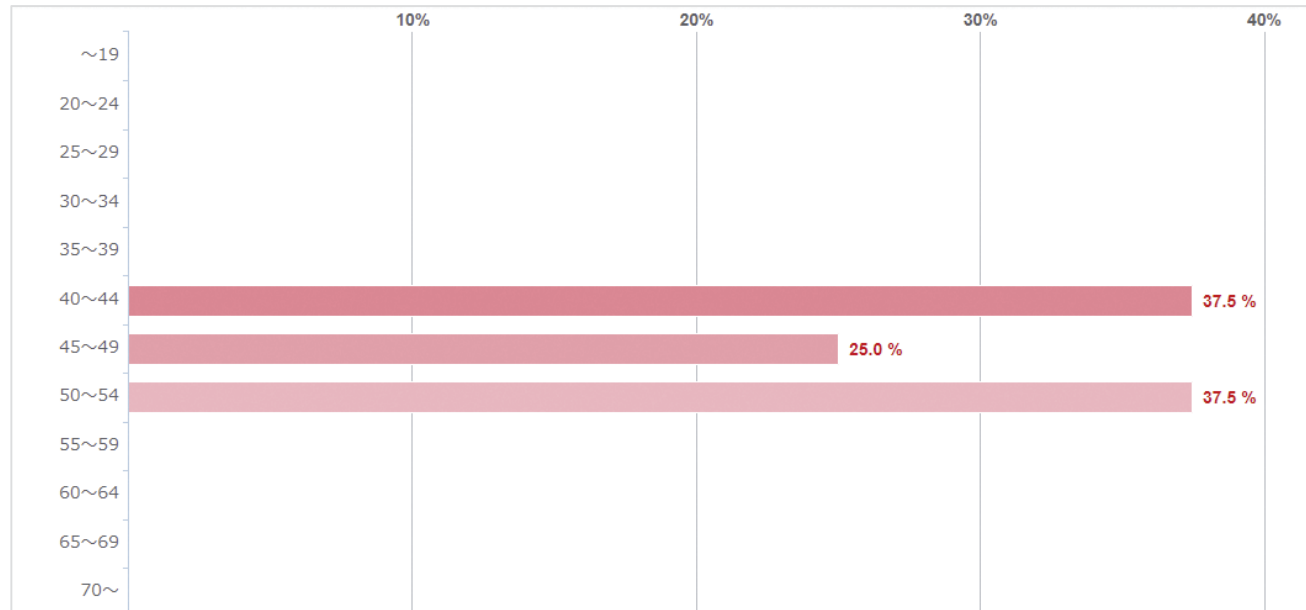
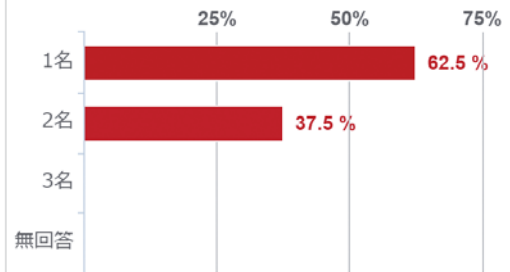


●回答者属性 ※8世帯の保護者より回答いただいた

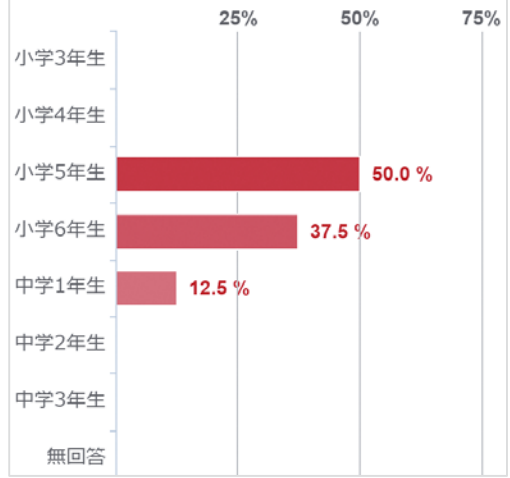


●子ども属性・菊川市、静岡の茶草場農法認知度

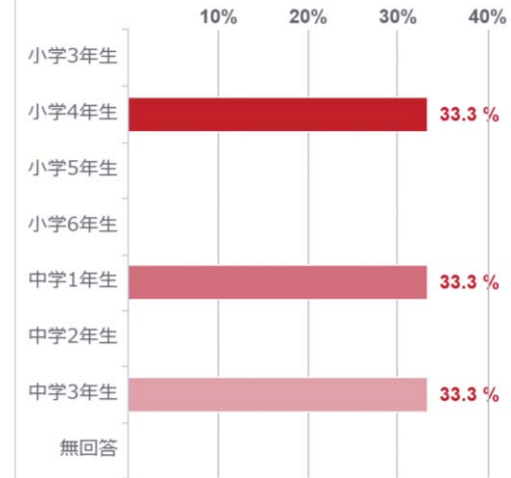
今回のプログラムにご参加いただいたお子様は何名でしょうか。
(回答数: 8)



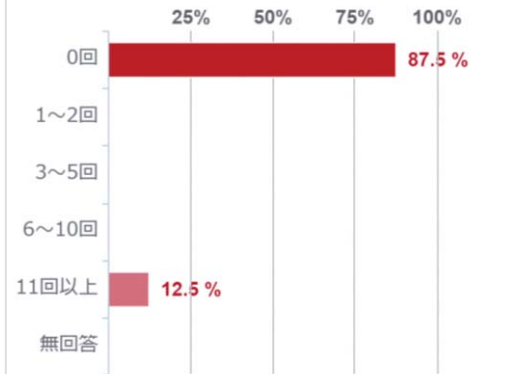
お子様の学年を教えてください。(お1人目)
(回答数: 8)



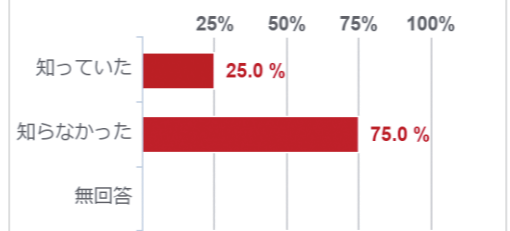
お子様の学年を教えてください。(お2人目)
(回答数: 3)



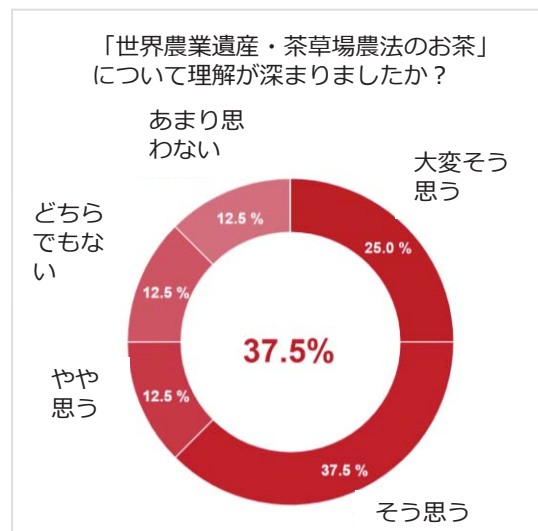
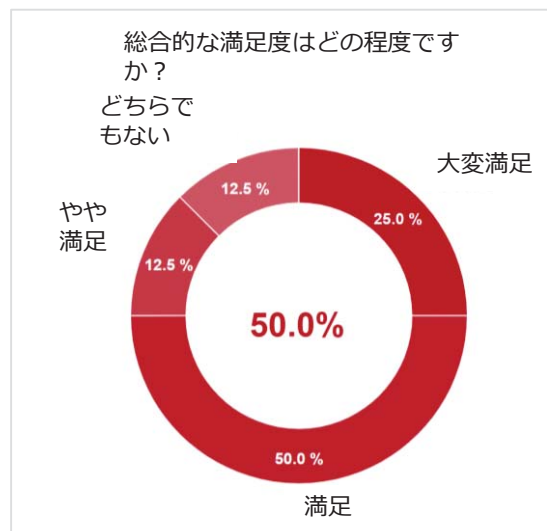
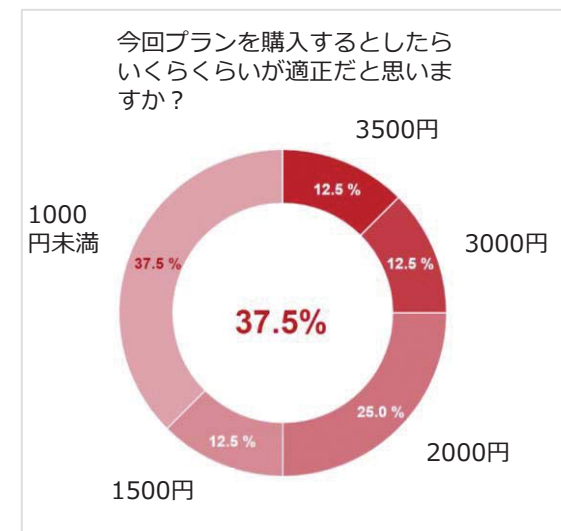
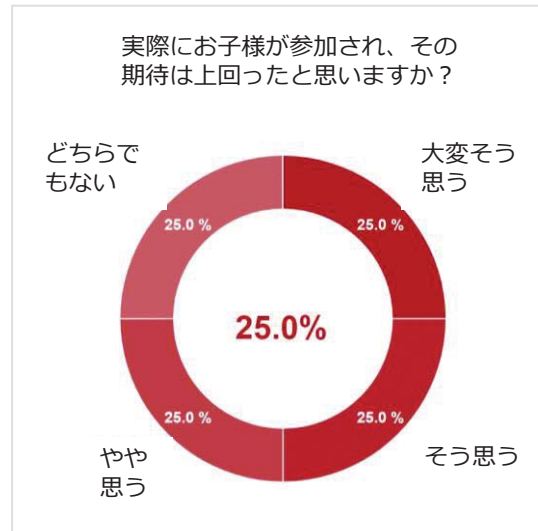
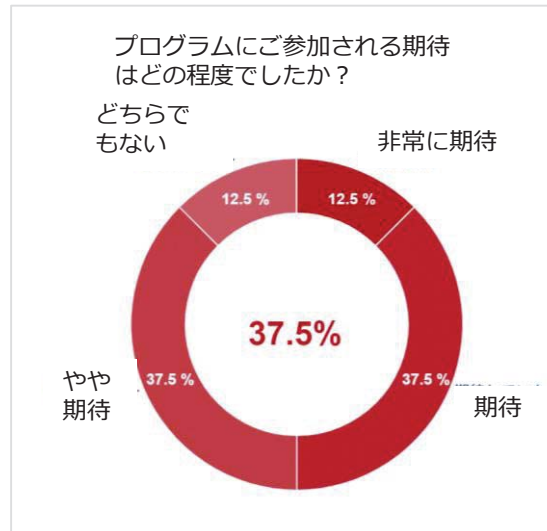
あなたの菊川市訪問回数についてお知らせください(あてはまるものひとつ)
(回答数: 8)



あなたは「世界農業遺産・静岡の茶草場農法」を知っていましたか？(あてはまるものひとつ)
(回答数: 8)



●プログラム期待値と満足度



●プログラム満足度詳細

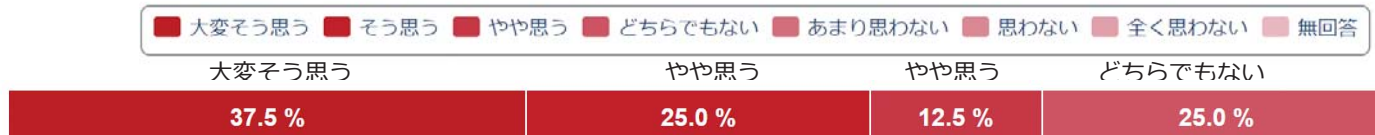
子どもにいいと感じた (回答数: 8)



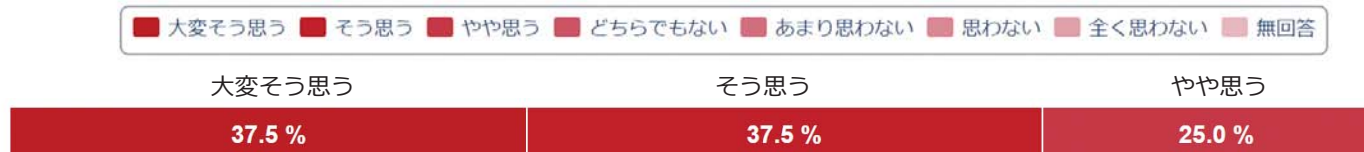
家族で楽しめた (回答数: 8)



運営者の説明がよかった (回答数: 8)



静岡の茶草場農法のお茶の良さを感じた (回答数: 8)



また参加したい (回答数: 8)

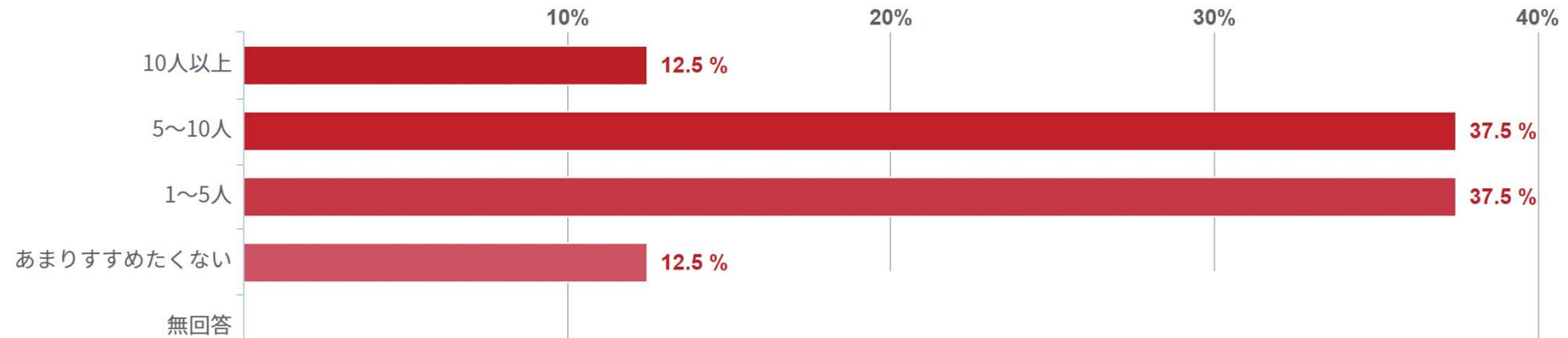


●紹介意向・購入意向

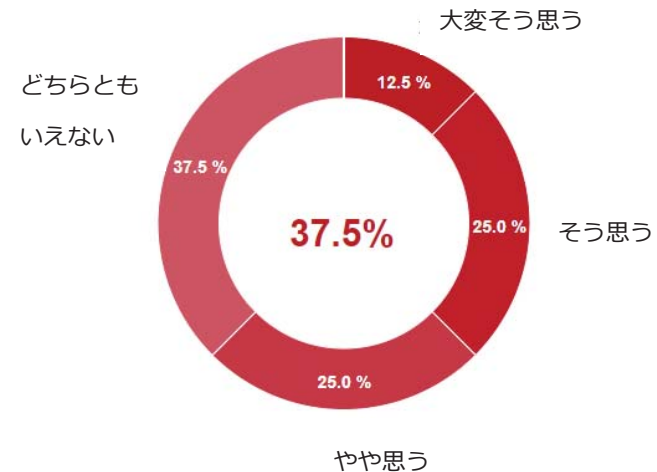
人にすすめたいと思いますか？



今回のプログラムをすすめたい友人が何人くらいいますか？

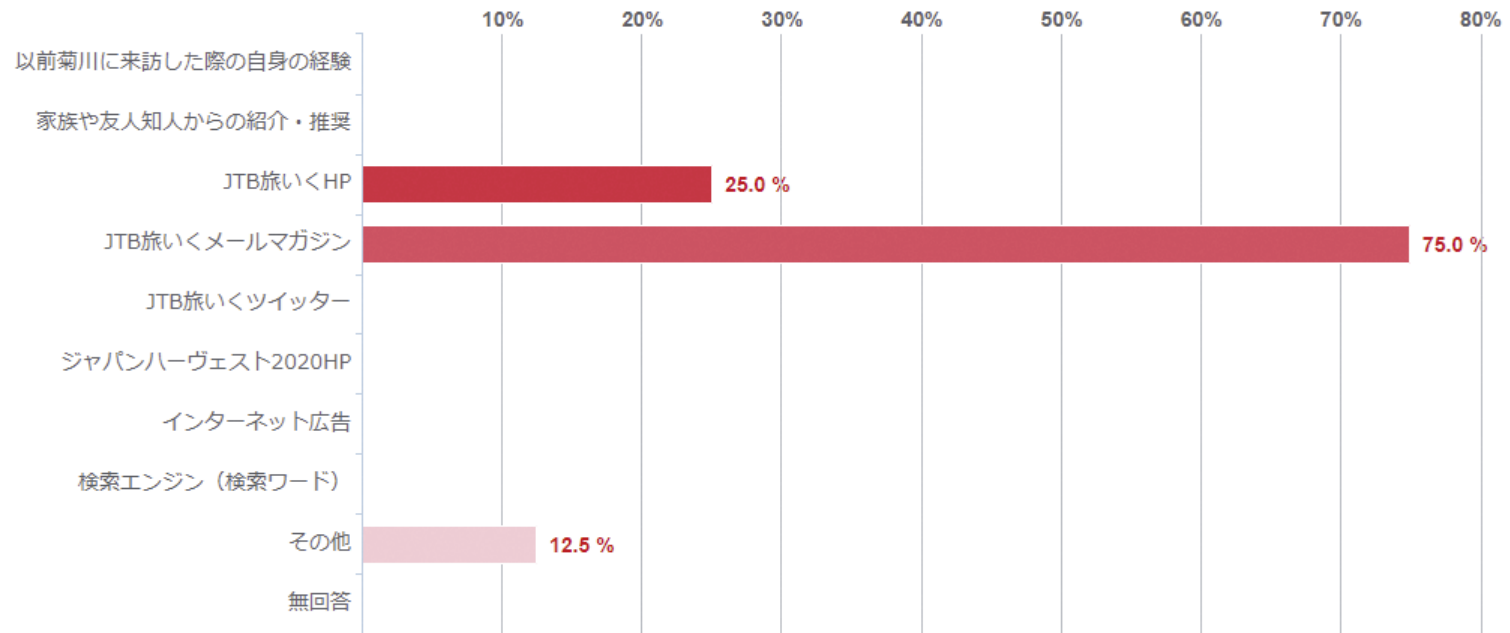


今後、「世界農業遺産・静岡の茶草場農法のお茶」を積極的に店頭やインターネットで買ってみたいと思いますか？



参加者アンケート⑥

●情報収集源



- ・お茶作りのことを教えてもらって、勉強になった。
- ・今までどこで作られているのか、気にしたことがなかったが、いろいろな種類の作り方があることがわかった。家でも、考えながら飲んでみたい。
- ・緑茶と紅茶のことがよくわかった。緑茶は苦いイメージが強かったが、実際に飲んでみて、いろいろなことがわかり、よかった。
- ・お茶は身近な飲み物。作り方を実際に教えてもらえてよかった。
- ・茶草場農法を初めて知った。たくさんのいいことがあるのだということがわかった。今度からはお店でも茶草場農法のお茶を買ってみたい。
- ・茶草場農法が、動植物を守ることになることがびっくりした。
- ・急須を使うことが少なくなっている。これからは是非急須を使って飲んでみたい。
- ・地域の特産品を作る工夫についていろいろ勉強になった。これから、自分たちも横須賀でドレッシングを作るが、参考にしていきたい。

●考察

「世界農業遺産・静岡の茶草場農法」をテーマにしたオンラインプログラムをお茶教材セットを事前送付する形でオンラインライブで実施したが、子ども達のアイデアを表現したラベルシールについては非常に個性豊かで、運営する大人、プログラム講師を担っていただいたお茶農家さんいっても新たな気づきであった。リアル体験ではない中、オンラインでどこまでワークショップとして成立するかの実証であったが、オンラインライブでもワークショップとして成立することがわかった。

プログラムに対しての期待も87.5%が期待をしており、オンラインプログラムに対する親子の期待が高いことがうかがえた。リアル体験と異なり、オンラインでの子ども向けの体験プログラムということから、講義はスライド中心、できるだけお茶教材セットを使って参加者が実験したり、体験したりする部分の時間配分を多くしたり、リアル体験だとなかなかゆっくり時間がとれない茶業生産者と直接参加者が対話、質疑応答できる時間も設けることで、オンラインとリアルを融合させたプログラム設計にした。プログラムの満足度について、87.5%が総じて満足しており、一定評価できるものの、満足度詳細設問に対して不満足であると回答している参加者がいたのも事実であるので、今後の運営課題として検討する必要がある。

半面、オンラインだからこそ臨場感や参加者が実感する満足度はやはりリアル体験よりは劣ることから、販売価格に関する質問では2000円以下が75%を占め、付加価値のつけ方に課題が残った。

「茶草場農法でのお茶」に対する理解、態動変容についても、五感体験を多くとり入れた成果もあり、過半数が理解促進、購入意向の変化が見られ、体験プログラムを通しての戦略的なプロモーションにつながっていることがわかった。

●今後に向けた展望

新たな生活様式のもと、リアル体験の在り方がかわる中、オンラインプログラムによる事前学習、リアル体験、といった組み合わせ型の商品展開、小中学校向けの総合学習や社会学習としてのオンラインライブ授業、スタディツアーの事前学習としての可能性があると感じられる。今後はリアルとオンラインを組み合わせた商品展開の可能性を検討したい。